



## 地元産の木材で 西条市のシンボル建ちあがる！

新居森林組合組合長 伊藤浩さん

この度の四国鉄道文化館（仮称）建設は、財団法人日本ナショナルトラストの「地域の民力と資源の総結集で活力あるまちづくり」という明快なコンセプトが原動力となりました。

私たち木材供給側にとって地元の木材を無垢材（丸太を製材しただけのもので、集成材等に加工しない状態の材）のままの工法で建てていただけることは、木の持つ素材の温かさや良さを、市民の皆さんや遠くから西条市を訪れてくれた皆さんに直接理解してもらえる最良の機会だと喜んでいきます。

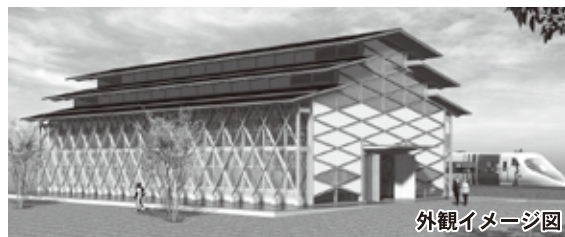
特筆すべきは、長さ12mもの丸太材（80年生～100年生）を篤志家の快諾を得て出材できたことです。その心意気に、私たち一同強く心を打たれました。

新西条市の情報発信基地となる文化館の建設が起爆剤となって、地元産材による素晴らしい建物群が次々と現れ、豊かなゆとり環境の主役として、誇るに足る街並みが形成されればと心から願っています。

“伐らなさすぎ”で、病める状態にある森林の再生にも大いに貢献できるに違いありません。



▶集成材を使わない今回の建築のため、伊藤さんに調達していただいた巨木。



外観イメージ図

広報6月号などでお知らせしたとおり、財団法人日本ナショナルトラストが施工主となって、JR伊予西条駅前「四国鉄道文化館（仮称）」の建設が進んでいます。文化館は四国の鉄道文化を学ぶことのできる、新しい交流拠点となるよう整備を進めているのですが、100%地元産の木材を使用し、これまでにない工法を採用した斬新な木造建築物であることも注目を集めています。

「都市と森の循環的共存システム」を構築する木製都市構想を推進している西条市にとって、重要な意味を持つ建築物です。木材の調達や加工、造作など、あらゆる工程に地元西条の皆さんの思いや伝統を活かしながら、この文化館は完成するものです。それぞれの立場で文化館建設に関わっていただいている皆さんの思いを、数回に分けてご紹介します。

## うみまるの海知識 Q&A

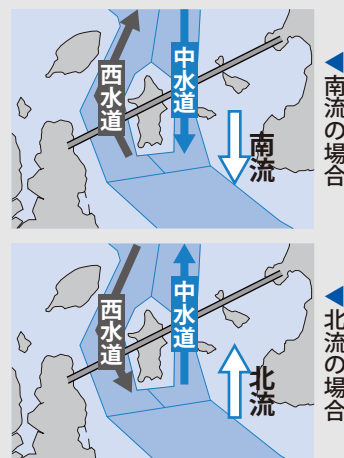


Q：来島海峡の潮流の流向によって航行する航法 順中逆西（じゅんちゅうぎやくせい）って何？

A：西条市の北西方にある来島海峡は、東予地方の西側の玄関口に当たり、1日約700隻の船舶が航行しています。その中には島々が散在しているため、船舶が通航する水路は非常に狭く、かつ屈曲したものになっており、潮流が非常に早く、時には10ノット（時速18km）を超え、鳴門海峡、関門海峡とともに日本三大強潮流として知られています。

来島海峡には、海上交通安全法によって航路が定められており、船舶が潮流に乗って航行する場合（順潮の場合）は中水道を、潮流に逆らって航行する場合（逆潮の場合）は西水道を航行することとなっています。

これは、順潮の場合は舵の効きが悪くなり操船が難しくなるため、屈曲が小さくて水道の長さが短い中水道を通り、逆潮の場合は潮流に逆らって航行することで舵効きが良くなるため、大きく屈曲した西水道を通るようにしたものです。この航法は「順中逆西」と呼ばれ、世界的にも珍しく、日本で唯一の航法となっています。



順中逆西の航法

来島海峡には今治海上保安部が運用する潮流信号所が5カ所設置され、通航する船舶に対して潮流に関する情報を提供しています。

また、この海域には来島海峡海上交通センターも設置されており、通航船舶を24時間レーダー監視するとともに、常時配備された巡視船艇によって通航船舶の交通整理も行っています。